

1 圏域内外の広域的な人的交流 の実態把握・ニーズ分析

本章の目的・構成

交流活発化の方策を検討するにあたり、本章では次の4つの観点で人的交流の実態およびニーズ分析を行う。

1-1 北陸圏における交流の現状（国内）

全国的な統計を用い観光交流の概況や、認知度・ニーズを整理する。
また本調査で実施したアンケートを集計・分析することにより、圏域内外の詳細な交流実態の整理を行う。

1-2 北陸圏における交流の現状（インバウンド）

全国的な統計等を用い、北陸圏における外国人の交流の概況や特性について整理を行う。

1-3 東海北陸道の全線開通、北陸新幹線の開通に伴う新たな人的交流ニーズの可能性及び波及効果分析

平成20年7月に全通した東海北陸道の開通効果の整理を行う。
また、北陸新幹線の開通に伴う交流ニーズの可能性について、先行県の実態分析からケース設定を行い、交流人口増加の推計を行うとともに、産業連関表を用いた波及効果分析を行う。

1-4 観光交流の全国的な動向と今後のトレンド

観光における全国動向、旅行のトレンドを整理することにより、今後の観光交流の方向性を探る。

1-1 北陸圏における交流の現状（国内）

（１）北陸における観光交流の現状

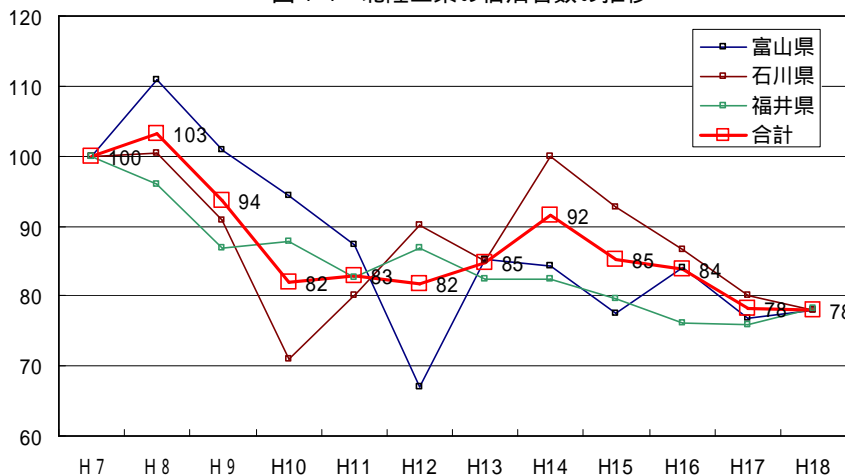
北陸の交流人口は全国と比べ伸び悩んでおり、規模も小さい

- ・北陸三県の宿泊者数は、平成7年から10年にかけて減少しその後ほぼ横ばいで推移している。（図1-1）
- ・JTBの送客実績では、H13を100とするとH18は95、H19は82（能登半島地震の影響）であり、全国平均と比較して減少率が高い。（図1-2）
- ・宿泊者は915万人（全国の3.0%）であり、国際会議数も少ない。（図1-3・1-4）

近畿圏・中部圏からの旅行者が多く、首都圏のシェアは全国と比べ小さい

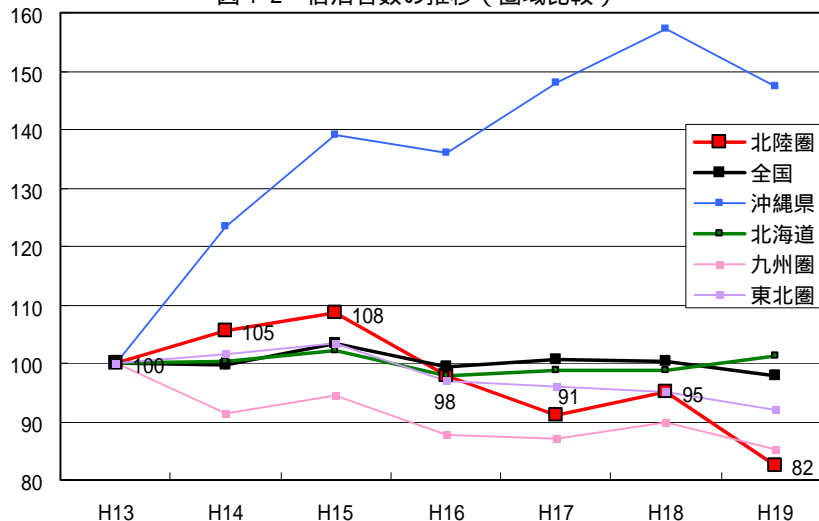
- ・北陸三県を訪れた旅行者の居住地シェアをみると、首都圏の全国シェアが39.3%であるのに対し、北陸全体で24.2%（富山県34.7%、石川県24.7%、福井県13.4%）と15ポイント以上小さい点が特徴である。（表1-1）
- ・三大都市圏では福井県、石川県では近畿圏のシェアが高く、全体として中部圏のシェアも高い。（表1-1）

図1-1 北陸三県の宿泊者数の推移



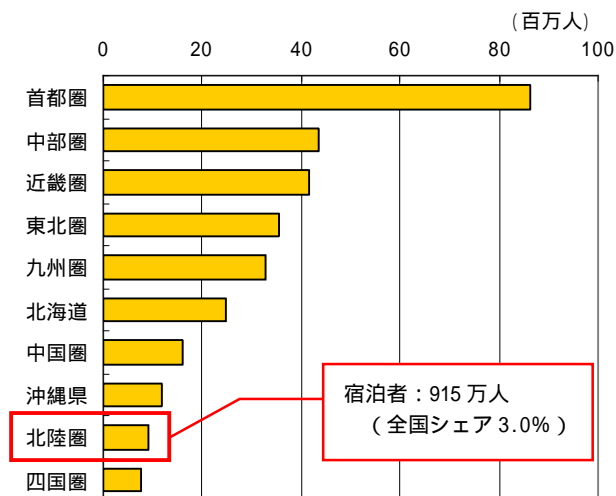
H7を100とした数値
出所：各県観光統計

図1-2 宿泊者数の推移（圏域比較）



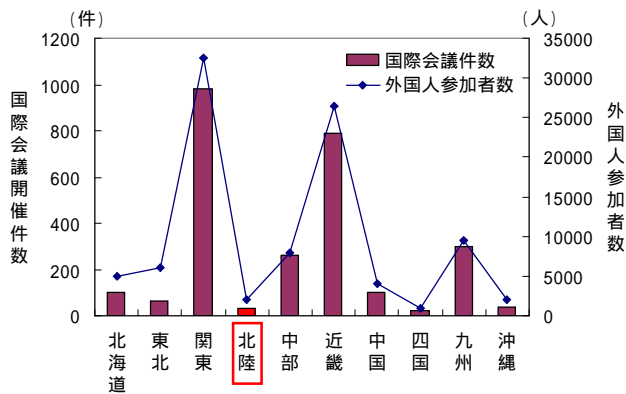
H13を100とした数値
出所：『JTB 宿泊白書2008』
（株）リズム・マーケティング研究所

図 1-3 宿泊者数 (H19・国内・のべ宿泊者数)



出所：国土交通省宿泊旅行統計
従業員数 10 人以上の施設

図 1-4 国際会議開催件数



出所：国土のモニタリング

表 1-1 旅行者の居住地シェア (平成 19 年度・のべ宿泊者数)

旅行先 \ 居住地	北海道	東北圏	首都圏	中部圏	北陸圏	近畿圏	中国圏	四国圏	九州圏	沖縄県
富山県	1.3%	5.4%	34.7%	14.5%	27.4%	12.1%	1.4%	0.7%	2.2%	0.3%
石川県	1.1%	3.8%	24.7%	16.0%	30.3%	19.3%	1.9%	0.8%	1.8%	0.4%
福井県	0.3%	2.9%	13.4%	17.2%	30.5%	33.2%	1.4%	0.7%	0.4%	0.0%
北陸合計	1.0%	3.9%	24.2%	15.9%	29.7%	20.9%	1.7%	0.8%	1.6%	0.3%
全国	5.3%	9.1%	39.3%	11.8%	2.3%	17.1%	4.2%	1.9%	8.2%	0.8%
北海道	41.8%	3.9%	31.9%	6.1%	0.8%	10.0%	1.7%	1.1%	2.4%	0.3%
東北圏	2.3%	46.8%	40.3%	4.0%	1.0%	3.7%	0.7%	0.3%	0.9%	0.1%
首都圏	2.4%	8.6%	56.0%	11.2%	1.8%	10.3%	2.8%	1.2%	5.1%	0.6%
中部圏	0.7%	3.3%	39.1%	37.3%	1.9%	14.5%	1.2%	0.6%	1.2%	0.1%
近畿圏	1.8%	3.6%	28.9%	9.9%	2.3%	41.8%	4.3%	2.4%	4.6%	0.4%
中国圏	1.3%	2.0%	22.2%	5.8%	0.9%	18.8%	37.5%	3.2%	8.0%	0.3%
四国圏	1.4%	2.3%	23.4%	8.5%	1.0%	28.6%	9.3%	21.5%	3.7%	0.3%
九州圏	1.2%	2.0%	21.5%	5.4%	0.5%	10.8%	5.3%	1.6%	50.7%	1.0%
沖縄県	3.6%	4.5%	45.9%	10.8%	1.2%	17.6%	2.9%	1.5%	6.0%	6.1%

全国平均より 5 ポイント以上高い 全国平均より 5 ポイント以上低い

出所：国土交通省宿泊旅行統計 従業員数 100 人以上の施設

(2) 人的交流の実態整理 (2005 全国幹線旅客純流動調査より)

北陸への流動が多いのは、関西、関東、中京である。

- ・ 平日、休日ともに北陸への流動が多いのは、関西、関東、中京である。(図 1-5・1-6)
- ・ 三大都市圏のほかは、近隣県を除き、航空の便がある北海道、福岡県の流動がみられる。東北、中国、四国からの流動は少ない。(図 1-5・1-6)

三大都市圏からの平日の目的は仕事、休日の目的は観光

- ・ 三大都市圏からの平日の目的は仕事が多く、休日は観光目的が増える。(図 1-7・1-8)
- ・ 隣接県からは平日においても、観光、私用の割合が高く、多様な交流がみられる。(図 1-7・1-8)

圏域外から流入が多い地域は、富山県富山、石川県加賀、福井県嶺南

- ・ 圏域外からの流動が多いのは、富山県富山、石川県加賀、福井県嶺南である。(図 1-9・1-10)
- ・ 富山県富山および石川県加賀では三大都市圏からの流入が見られる。福井県嶺南は滋賀県、京都府からの流入が目立って多い。(図 1-9・1-10)

観光の流動は関西からが多く、次いで関東、中京が多い

- ・ 観光の流動は関西からが多く、次いで関東、中京が多い。(図 1-11・1-12)
- ・ 関東、九州、北海道からは航空が比較的多く、関西や中京では鉄道、近隣県からは乗用車が多い。(図 1-11・1-12)

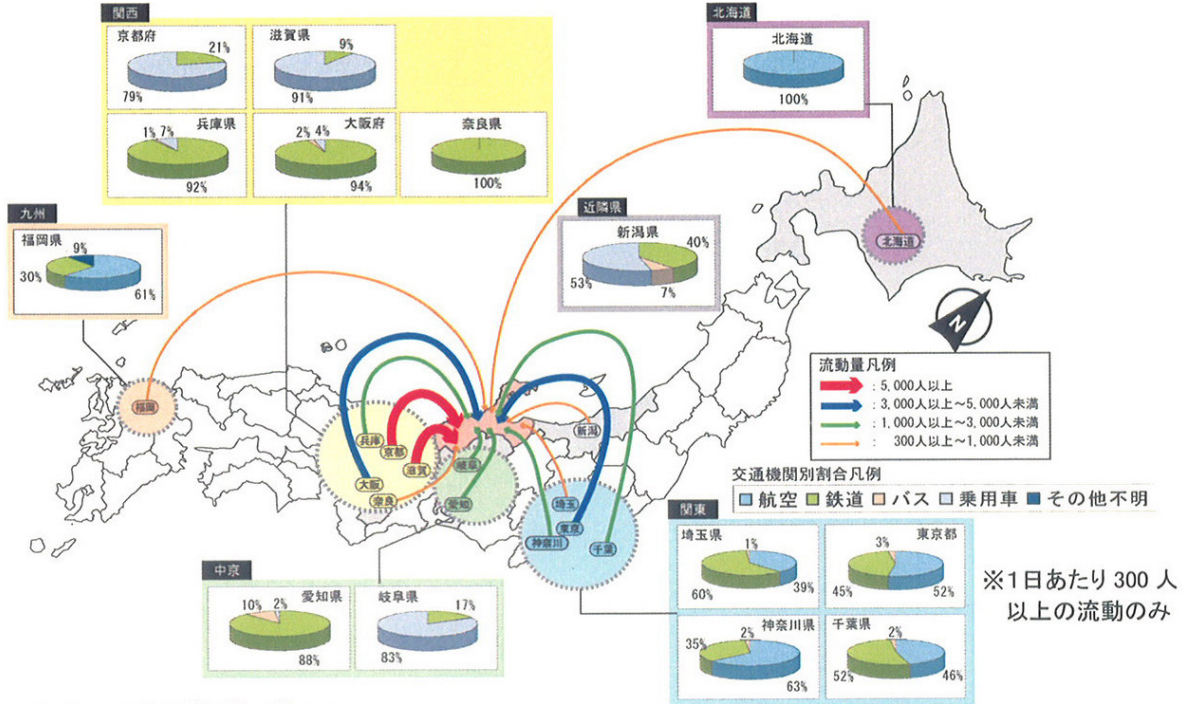
仕事の流動は大阪、東京を中心に三大都市圏が多い

- ・ 仕事の流動は大阪、東京を中心に三大都市圏が多い。(図 1-13・1-14)
- ・ 交通機関は、関東は航空が多く、そのほかは鉄道が多い。(図 1-13・1-14)

北陸への交通機関（平日）

- ・平日の北陸三県への流動は、主に関西、関東、中京からが多く、九州や北海道からの流動もみられる。
- ・比較的近隣の府県からは、「乗用車」の占める割合が大きい。関西圏は「鉄道」の占める割合が最も大きく、関東圏は、「航空」の占める割合と「鉄道」の占める割合がほぼ同率である。

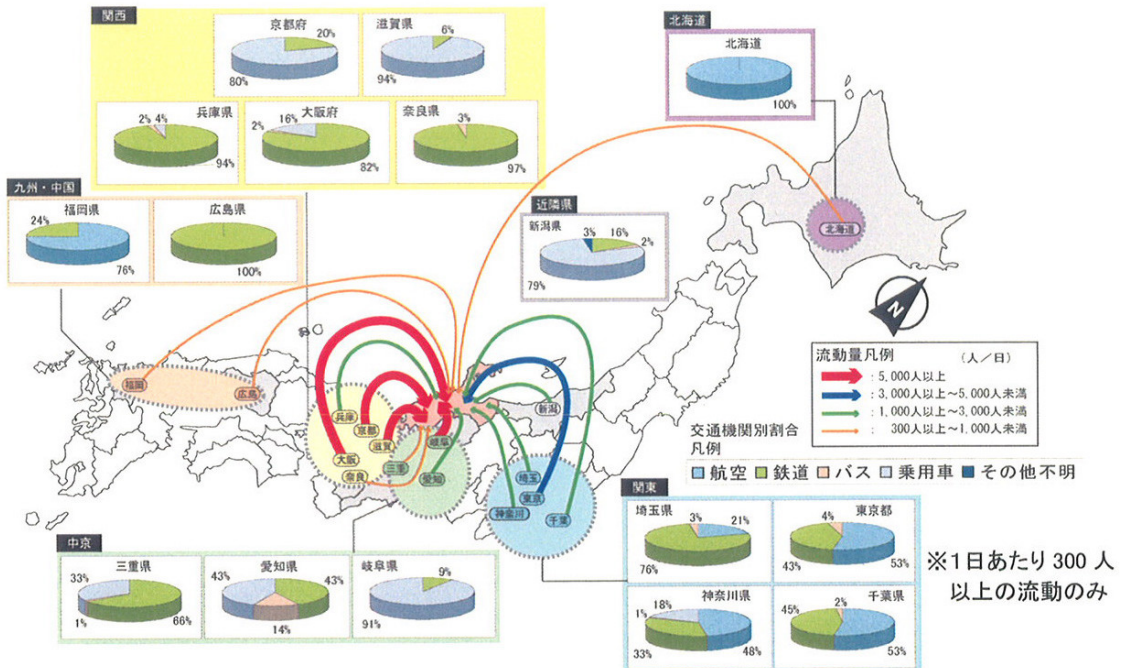
図 1-5 北陸三県を旅行先とする主な流動・代表交通機関別割合（平日）



北陸への交通機関（休日）

- ・休日の北陸三県への流動は、主に関西、関東、中京からが多く、平日と同様の傾向がみられる。しかし、流動量が平日に比べて多く、とくに関西（大阪など）や岐阜県からの流動量が多くなっている。

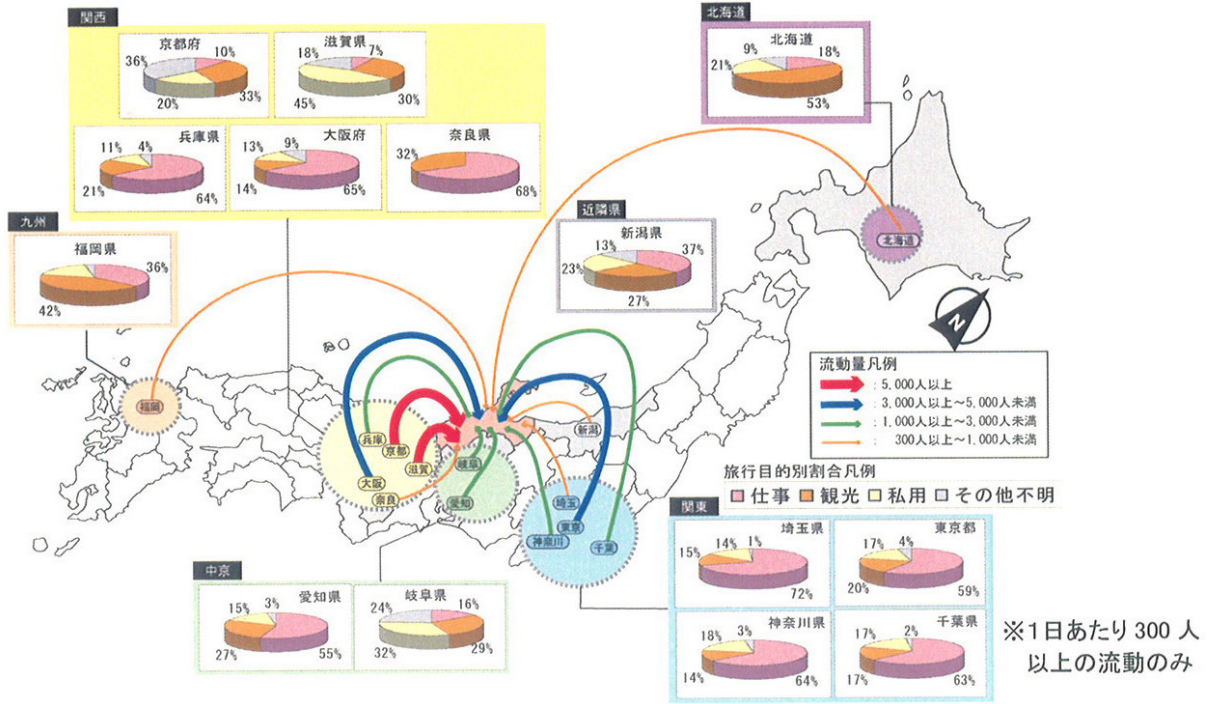
図 1-6 北陸三県を旅行先とする主な流動・代表交通機関別割合（休日）



北陸への旅行目的（平日）

- ・隣接県からは、「仕事目的」「観光目的」「私用目的」「その他」がそれぞれ見られる。
- ・関東や関西（隣接県以外） 愛知県からは、「仕事目的」で訪れる割合がもっとも大きい。

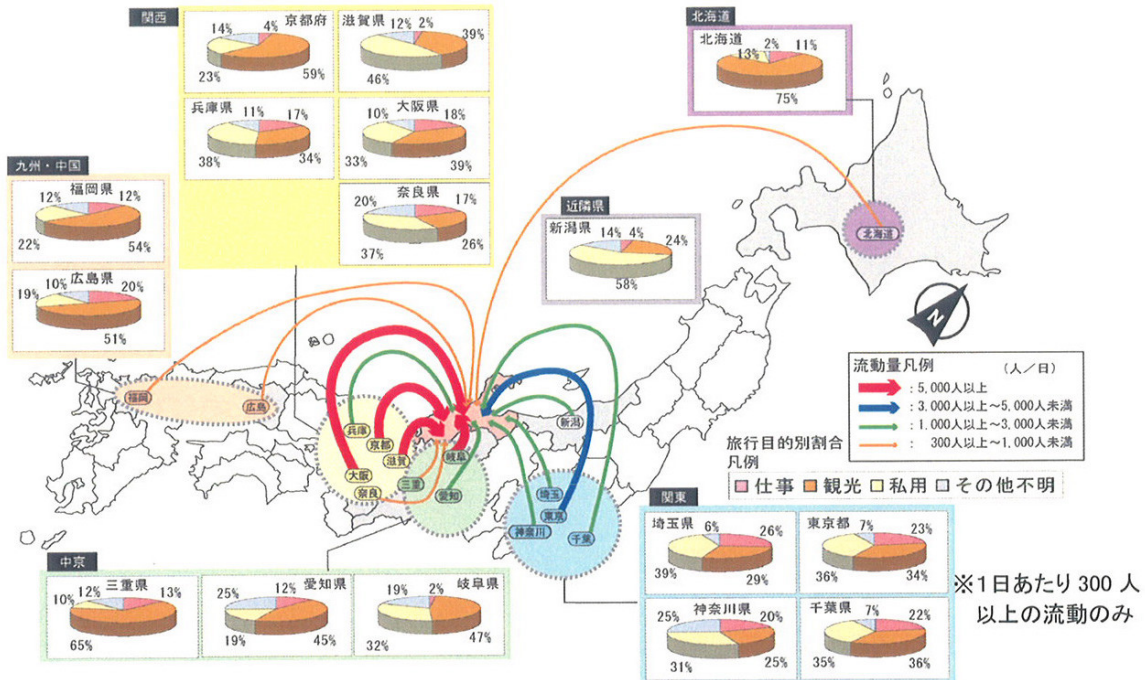
図 1-7 北陸三県を旅行先とする主な流動・旅行目的別割合（平日）



北陸への旅行目的（休日）

- ・関西や関東、中京、近隣県においては、平日に比べて「観光目的」「私用目的」の割合が高くなる。

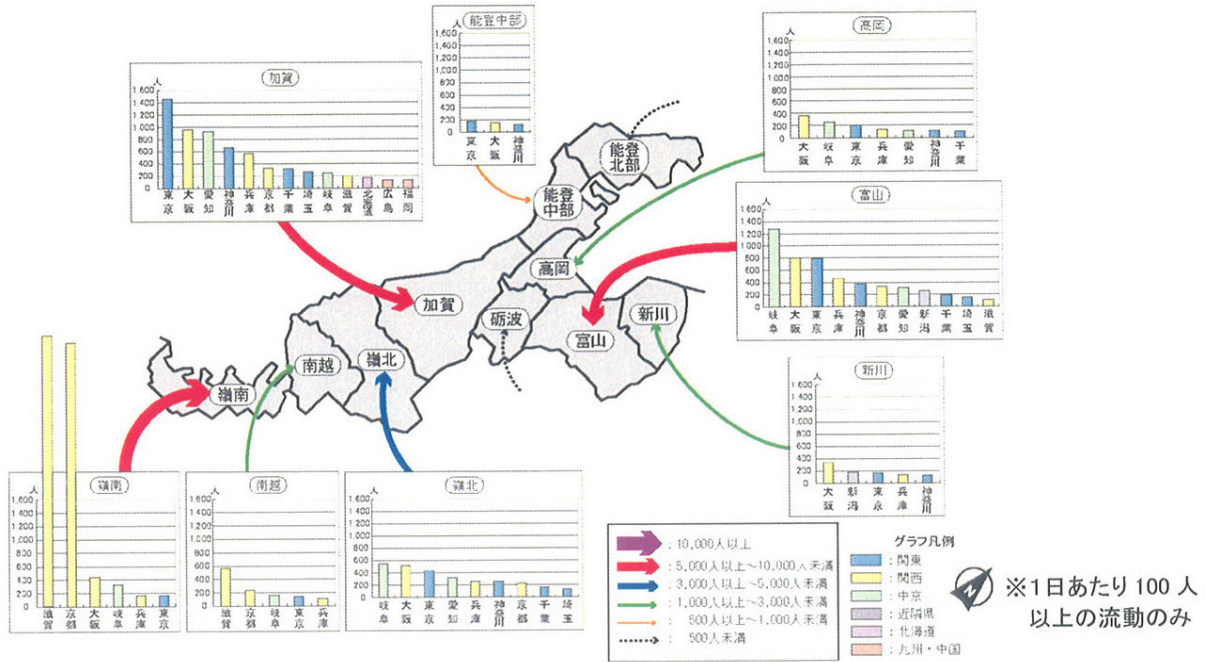
図 1-8 北陸三県を旅行先とする主な流動・旅行目的別割合（休日）



北陸における旅行目的地（平日）

- 平日は、福井県嶺南、富山県富山、石川県加賀への流動量が多い。
- 福井県嶺南へは滋賀県、京都府などの関西から、石川県加賀への流動は関東、関西、中京といった三大都市圏から、富山県富山への流動は、岐阜県、大阪府、東京都からが多い。

図 1-9 平日の北陸三県内の旅行目的地（生活圏）における発地（北陸三県外居住者）



北陸における旅行目的地（休日）

- 休日の旅行目的地は、平日と同様、福井県嶺南、富山県富山、石川県加賀への流動が多い。
- 流動量は平日に比べて多い。福井県嶺南は京都府、滋賀県からの流入が際立って多く、石川県加賀は東京都、愛知県、大阪府など三大都市圏から、富山県富山へは岐阜県からの流動が多い。

図 1-10 休日の北陸三県内の旅行目的地（生活圏）における発地（北陸三県外居住者）

